

JAFAMEニュース

NO.29 June 2026

アジア市場経済学会第29回全国研究大会（2025年度）が2025年6月28日（土）・29日（日）（対面開催、於：金沢大学）に、第2回（2025年度）冬季全国研究大会が2025年12月21日（日）（オンライン開催、於：名古屋学院大学）に開催されました。各研究会実行委員・事務局の先生方並びに関係スタッフの方々のご尽力に心より御礼申し上げます。

第30回全国研究大会（2026年度）は、2026年6月27日（土）・28日（日）に、同志社大学で開催されます。研究活動の活性化を通じて、更なる学会の発展を目指したいと考えておりますので、学会員の皆様には一層のご協力を賜りますようお願い致します。また、学会の運営に関しまして、忌憚ないご意見・ご要望をお寄せください。

今後とも本学会員の皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本号の主な内容

- I. 会長挨拶
- II. アジア市場経済学会第30回全国研究大会のお知らせ
- III. 2025年度全国研究大会報告・部会報告
- IV. 学会の運営に関する事項
- V. 2025年度共同事業・海外視察報告
- VI. 学会賞（著作、口頭発表）選考経緯

アジア市場経済学会
Japan Academy for Asian
Market Economies
HP: <http://www.jafame.jp/>

〒920-1192
石川県金沢市角間町
金沢大学人間社会研究域
張婧研究室内
MAIL: j-zhang@staff.kanazawa-u.ac.jp

I. 会長挨拶

会長 藤岡資正

(明治大学大学院グローバルビジネス研究科教授)

アジア市場経済学の構築と発展をより確かなものとするためには、本学会がこれまで重視してきた理論と実践の融合はもとより、学会そのものの国際化と社会化を併せて推進していくことが不可欠である。こうした認識のもと、本年は、「国際化」と「社会化」の推進を通じて学会の基盤強化と活性化を図ることを基本方針とし、張婧事務局長(金沢大学)、東西副会長(高橋義仁先生・飯島高雄先生)をはじめ、学会執行部および会員各位のご協力を得ながら、その具現化に向けた諸活動に取り組んできた。

学会の国際化と社会化を実質的に進展させていくためには、アジア全域を視野に収めた学会活動の展開が不可欠である。しかし、こうした課題に的確に対応するためには、従来の学会組織の枠組みにとどまらない、より柔軟で機動的な体制が求められる。そこで本学会は、村松潤一前会長を所長とするグローバルアジア研究センター(GARC: Global Asia Research Center)を設置し、アジアの企業や実務家、アジアに進出した日系企業、さらには各国の研究機関や政府機関等との連携を深めながら、理論と実務の融合を図ってきた。

2026年3月には、タイ・チュラロンコン大学において、IDE-JETRO(アジア経済研究所)との研究交流会を開催し、本学会からは10名が現地参加したほか、IDE-JETROバンコク事務所からは植木靖所長をはじめ3名の研究者が参加した。また、同時期には、JETROバンコク事務所およびサシン日本センターの共催により、現地経営者を対象とした「日系企業の現地化戦略」に関するセミナーも開催された。同セミナーでは、JETROバンコク事務所次長の山崎氏による挨拶、上江洲氏の司会のもと、GARC所長の村松潤一先生(畿央大学)、神戸製鋼所の宗先生、藤岡の3名が講演を行い、日系企業の経営者約60名が参加した。

こうした活動を通じて、今後も国際化と社会化という両輪を一層強化するとともに、アジアが抱える諸課題に対して、学術的知見と実務的視点の双方から貢献していくことが重要である。また、学会として社会に向けた発信を強化していくことも、同様に重要な課題である。その一環として、GARCにおける研究活動の成果を中心に、本学会創設30周年を記念する論集の編纂が進められており、2026年6月末に白桃書房より刊行される予定である。

さらに、飯島高雄西部副会長(近畿大学)を中心として、本学会30周年の歩みの編纂も進められているほか、高橋義仁東部副会長(専修大学)を中心として、記念シンポジウムの開催も予定されている。また、社会への発信という観点からは、総務委員長の星田剛先生(白鷗大学)を中心に、JAFAMEニュースの編集ならびに学会活動に関するホームページの更新が継続的に行われており、本学会の活動を広く社会に発信するための体制整備が着実に進められている。

研究活動の活性化という点では、研究委員長の亀岡京子先生(名古屋学院大学)を中心に、2025年12月には第2回冬季全国研究大会が開催され、QRコードの開発者である株式会社デンソーウェーブの原昌宏氏による基調講演をいただくなど、研究成果の発信と交流の場の充実が図られた。また、編集委員長の今村一真先生(茨城大学)を中心として、学会誌の査読体制の整備やオンラインジャーナル化への対応が進められてきた。加えて、全国研究大会においては、若手研究者や実務家会員を対象に、研究方法論やジャーナル投稿に関する講習・助言の機会を設けるなどの取り組みが昨年度より実施されており、同セッションには多くの会員が参加している。

次世代研究者の育成と研究交流の促進という観点からは、京都女子大学の江向華先生および兵庫県立大学の中村友哉先生を中心として、若手研究者の会が継続的に開催されている。さらに、本年6月には記念すべき第30回全国研究大会が、林田秀樹先生(同志社大学)を大会実行委員長、中井教雄先生(広島修道大学)・江向華先生(京都女子大学)を副委員長として、京都の同志社大学において開催される予定であり、本学会のさらなる発展に向けた大きな節目となることが期待される。

今後は、学会として質の高い学際的研究を担保しつつ、国際化と社会との連携をより確かなものとするための取り組みを継続し、アジアが抱える諸課題の解決に向けて理論と実務の融合を一層推進していくことが重要である。そうした積み重ねを通じて、アジア市場経済学会の魅力さをさらに高め、本学会の発展へと確実に結び付けていくことを期待するものである。会員の先生方におかれては、今後とも一層のご理解とご支援を賜るようお願い申し上げます。

2026年4月13日 アジア市場経済学会会長 藤岡資正

II. アジア市場経済学会第30回全国研究大会のお知らせ

第30回全国研究大会
実行委員長 林田秀樹(同志社大学)

拝啓 今年も残すところあと僅かとなりました。会員の皆様におかれましては、ご清祥のこととお慶び申し上げます。さて、11月23日に開催されました第3回理事会におきまして、2026年度のアジア市場経済学会第30回全国研究大会を、統一論題「アジアと学び、世界を迎える：日本の企業と町の「成熟」の活かし方」の下に開催することとなりましたので、ご案内申し上げます。

少子高齢化が進む現在、日本の経済社会の「成熟」はときに「老化」と捉えられることがあります。今回の統一論題の趣旨は、そうした状況下で、アジアとともに学びながら日

本の成熟をプラスの方向に活かし、世界から国内に人々を迎えることで日本の成熟をより豊かなものとしていけるヒントを探ろうとすることにあります。そうすることで、将来のアジアと日本に豊かな産業と市場、前途有為な人材が育っていく展望を掴む契機となれば、この統一論題の下での議論は意義をもつことになります。

会員の皆様には、ご自身の研究や、居住地・所属機関所在地における地域社会との連携活動等から、上記の論題に関連したテーマについてご発表をご準備いただき、アジアと日本の関係について新たな視点から分析を加え理論化を図り、有用な知見を社会実装していくための方法等についてご発表いただければと存じます。そして、参加者との活発な議論を通して、本学会並びに広くアジアと日本の経済社会一般の発展に貢献できれば、統一論題設定の目的は達成されます。

末筆ではありますが、今大会の実行委員会として、多くの方々の大会への参加と積極的な発表を心よりお待ちしております

敬具

記

1. 日時：2026年6月27日(土)：自由論題・統一論題発表、会員総会及び懇親会
28日(日)：自由論題発表
2. 会場：同志社大学今出川キャンパス（対面開催）
3. 発表（統一論題・自由論題）の申し込みについて
 - (1) 申込方法：以下の回答フォームから必要事項をご入力の上お申し込みください。
アジア市場経済学会 第30回全国研究大会 発表申込み - Google フォーム 発表申込者には、審査用発表要旨、公開用発表要旨のフォーマットを送ります。
 - (2) 問合せ先：実行委員会副委員長 江 向華（京都女子大学）
E-mail: kok@kyoto-wu.ac.jp
 - (3) 申込締切日：2026年2月15日（日）
4. 発表要旨の提出および発表の可否について発表希望者は、①審査用発表要旨(A4で4頁、なお、執筆に際しては、背景、問題意識、目的、方法、結果、考察、結論について触れて下さい)、②公開用発表要旨(A4で1枚)を提出して下さい。
 - (1) 提出先：プログラム委員会委員長 亀岡 京子（名古屋学院大学）
E-mail: kameokak@ngu.ac.jp
 - (2) 締切り：2026年3月31日(火)
 - (3) 発表の可否：審査用発表要旨にもとづいて発表の可否が決まります。結果は2026年4月中旬に本人に通知されます。なお、審査基準は論文査読基準（関連性・貢献、新規性、有用性、信頼性、完成度）に準じます。

5. 口頭発表賞(国内セッション、国際セッション)について 2023年度より口頭発表賞が設けられています。審査用発表要旨および当日の発表内容にもとづき審査し、後日、学会賞、奨励賞、院生賞の該当者を発表します。

以上

【アジア市場経済学会 第30回(2026年)全国研究大会 統一論題及び趣意書】
「アジアと学び、世界を迎える：日本の企業と町の「成熟」の活かし方」

日本は成熟した先進国であるという認識が、国内外で一般的になって久しい。少なくとも40年は経過している。しかし、本学会が創立された1990年代半ば以降、いわゆる「少子高齢化」が進むにしたがって、その「成熟」は、無意識的に「老化」というマイナスイメージで捉えられることが国内で定着してきているといえないだろうか。今回の統一論題の趣旨は、そうした日本のイメージに疑問を投げかけ、アジアとともに学びながら日本の成熟をプラスの方向に活かし、世界から人々を迎えることで、たとえ老化を伴うものであったとしても日本の成熟をより豊かなものとしていけるヒントを探ろうとすることにある。そうすることが、将来においてアジアと日本に豊かな産業と市場、前途有為な人材が育っていく展望をつかむ契機となれば、この統一論題の下での議論は意義をもつことになる。

以下では、「アジアと学ぶ」こと、「世界を迎える」ことそれぞれについて、今回の論題について議論する際、どのような論点を想定できるかについてみることにする。

【アジアと学ぶ】

これまで、製造業（ものづくり）の発展において群を抜く日本がアジア諸国に技術を移転させることにより「日本がアジアに教える」、あるいは「アジアが日本から学ぶ」ことが両者の産業経済上の知的資源の自然な流れとみられていた。しかし、現在では、アジアと日本との関係はこうした一方向的な「学ぶ」「教える」という関係だけで成り立つものではなくなってきている。日本企業とアジアの顧客や取引先企業、内外の行政など利害関係者間の「価値共創」とは少し異なる領域・枠組みでの「アジアとの学び」について考える。例えば、日本企業によるアジアの大学・研究機関との産学連携に基づく相方向的な製品・市場・事業機会の開発、アジアの創発型先端企業との協同・競合・対抗を起点とした日本企業・研究機関間の新たな協調などである。これらの相互交流のなかで、日本の企業と社会の「成熟度の高さ」がどのように活かされうるか、様々な事例について議論する。

【世界を迎える】

2012年以降、円高が昂進・定着してくるなかで、海外観光客、特にアジアからの観光客が激増し、いわゆるインバウンド景気が日本各地の経済を底堅く支えてきた。そうしたなかで、シンガポールやベトナムを対象としたある調査によると、訪日を機に日本の伝統工

芸品の魅力を知り帰国後もそれを取り寄せるなどして需要を持続させている観光客も少ないという。国内では人口減少とともにシュリンクする工芸品市場をアジアの市場が補うことで、日本の伝統産業の新たな振興につながるケースであるといえる。ただ、オーバーツーリズムが地元住民の生活を一部阻害するなどの現象もみられるため、海外観光客の増大は決して歓迎すべきことばかりではないが、今回の大会が開催される京都では、京都市内に溢れかえる観光客を、市外の歴史的な景観と伝統的な農的自然に恵まれた「もうひとつの京都」へと案内する観光政策が行われている。以上のような例も、「成熟した日本」であればこそ可能となるものである。

以上に例示したものを含め、統一論題に関連した様々なテーマでの報告を促し、アジア、そして世界と「成熟した日本」との関係のあり方、「日本の成熟」の活かし方を問い直す。

以上

2025年12月吉日 アジア市場経済学会
第30回全国研究大会実行委員会、プログラム委員会

Ⅲ. 2025年度全国研究大会報告・部会報告

1. 全国研究大会開催報告

第29回全国研究大会

開催日：2025年6月28日(土)・29日(日)

開催場所：金沢大学 角間キャンパス

[自由論題セッション A] (人間社会第2講義棟 208) 6月28日(土)10:00~11:05

座長：今村一真 (茨城大学)

10:00~10:30

第1報告「夜間光データを用いた中国のインフラストラクチャーの空間的波及効果
—空間ダービンモデルによる分析—」

発表者：章超 (同志社大学大学院)

コメンテーター：陳文挙 (日本大学)

10:35~11:05

第2報告「オムニチャネル小売業における文脈マネジメントの一考察—中国市場の京東
MALLの事例をもとに—」

発表者：張善会 (岡山理科大学)

コメンテーター：張婧（金沢大学）

[自由論題セッション B] (人間社会第 2 講義棟 209) 6 月 28 日(土)10:00～11:05

座長：河知延(近畿大学)

10:00～10:30

第 1 報告「日系企業のアジア地域における立地選択—文化的類似度に注目した探索的分析—」

発表者：曾我寛人（釧路公立大学）

コメンテーター：亀岡京子（名古屋学院大学）

10:35～11:05

第 2 報告「知識移転を目的としたクロスボーダーM&A の統合マネジメントに関する一考察—日本企業 A 社がタイで行ったクロスボーダーM&A を事例として—」

発表者：武田亜希子（STTGDCJAPAN）

コメンテーター：曾我寛人（釧路公立大学）

[自由論題セッション C](人間社会第 2 講義棟 209) 6 月 28 日(土)14:20～16:00

座長：曾我寛人（釧路公立大学）

14:20～14:50

第 1 報告「新興国市場の日系中小企業における中二階の原理の実践に関する研究—タイ・セベルピコを事例として—」

発表者：橋口久（プライアント株式会社）

コメンテーター：洪性奉（摂南大学）

14:55～15:25

第 2 報告「介護人材の国際化と多様性—入国前アンケート調査結果に見る就労働機と課題—」

発表者：中村和敏（九州産業大学）

コメンテーター：梁庭昌（金沢星稜大学）

15:30～16:00

第 3 報告「外国人留学生の就活意識と日本企業の採用基準から見たキャリア教育—高等教育を中心に—」

発表者：酒井順一郎（九州産業大学）&黄蓮順（東亜大学）&張抗私（東北
財経大学）

コメンテーター：飯島高雄（近畿大学）

[統一論題](人間社会第 2 講義棟 201) 6 月 28 日(土)11:15～12:20

司会：村松潤一（岐阜聖徳学園大学）

題目：「アジアにおけるダイバーシティ&インクルージョンの意義と企業成長への取り組み」

み」

講演者：三浦佳子（長崎県立大学）

[基調講演](人間社会第 2 講義棟 201) 6 月 28 日(土)13:00～13:35

司会：藤岡資正（明治大学）

題目：「アジア市場における外食産業の現地適応とブランド構築－8 番らーめんのタイ進出を通じて－」

講演者：吉村由則((株)ハチバン・専務取締役執行役員)

[Keynote Speech Session] (人間社会第 2 講義棟 201) 6 月 28 日(土)13:40～14:10

Introduction of Keynote Speaker Chairperson: Takamasa Fujioka (Meiji University)

Special Keynote Speech: “Higher Education for Enhancing Soft Power and Creative Economy”

Dr. Pornchai Mongkhonvanit (President, Siam University, Thailand)

[International Session] (人間社会第 2 講義棟 207) 6 月 28 日(土)10:35～11:05

座長：藤岡資正（明治大学）

10:35～11:05

第 1 報告 “Thailand's automobile industry is shifting to EVs, bringing about drastic changes in international competitiveness”

Yoshihito Takahashi & Manami Shinoda (Senshu University, Japan)

(C): Seitaro Seko (Sasin Management Consulting Japan Center,
Chulalongkorn. University, Thailand)

[International Session] (人間社会第 2 講義棟 207) 6 月 28 日(土)14:20～16:00

座長：高橋義仁（専修大学）

14:20～14:50

第 2 報告 “Thailand Perspectives on Digital Transformation, Institutional Capacities and Cultural Factors of Global Competitiveness”

Chaiyanant Panyasiri (Dean of the Graduate School of Management, Siam.
University, Thailand)

14:55～15:25

第 3 報告 “Organizational Wellbeing Model and Work-Life Integration: A Study of Female Faculties and Staff in Women's Colleges and Universities in China”
Wang Peng (Grace) (Siam University, Thailand & Xi'an Peihua University,
China)

15:30～16:00

第4報告 “Human Capital Management Model and Organizational Effectiveness in China's Private Universities”

Du Ping (Siam University, Thailand & Xi'an Peihua University, China)

[自由論題セッション D](人間社会第2 講義棟 208) 6月29日(日)10:00～12:15

座長：藤岡芳郎（畿央大学）

10:00～10:30

第1報告「タイ産業財市場における代理店ネットワークを活用した顧客価値の定量化に関する研究—日系アスファルトプラントメーカー日工の事例—」

発表者：川村健悟（日工株式会社）

コメンテーター：丸谷雄一郎（東京経済大学）

10:35～11:05

第2報告「タイ外食産業の食材供給ネットワーク」

発表者：高橋宏幸（久留米大学）

コメンテーター：飯島高雄（近畿大学）

11:10～11:40

第3報告「オンラインユーザーコミュニティ内のフィードバックが責任的知識貢献に与える影響に関する研究—社会関係資本の媒介効果に注目—」

発表者：ガ シンショウ（金沢大学大学院）

コメンテーター：梁庭昌（金沢星稜大学）

11:45～12:15

第4報告「多国籍企業による現地制度変革メカニズムの研究—イオンカンボジアの事例—」

発表者：星田剛（安田女子大学） & 白井哲也（学習院大学）

コメンテーター：高橋義仁（専修大学）

[自由論題セッション E](人間社会第2 講義棟 209) 6月29日(日)10:00～12:15

座長：中井 教雄（広島修道大学）

10:00～10:30

第1報告「デジタル化の進展と金融システムの変化」

発表者：落合宏（帝京大学）

コメンテーター：グエン・ドゥック・ラップ（広島修道大学）

10:35～11:05

第2報告「日本企業によるクロスボーダーM&Aの短期株価効果の実析—ベトナムとタイのデータをもとに—」

発表者：奥村善一（ソフトバンク株式会社）

コメンテーター：中村竜哉（拓殖大学）

11:10～11:40

第3報告「タイ・プラス・ワン企業戦略における協調・互恵関係に着目した移転先の
検討プロセス—エンベデッドネスを中心的な概念とした探索的研究—」

発表者：鈴木一央（and Asia 株式会社）

コメンテーター：江向華（京都女子大学）

11:45～12:15

第4報告「インドネシア・プラボウォ政権のエネルギー政策とアブラヤシ・パーム油産
業の展望」

発表者：林田秀樹（同志社大学）

コメンテーター：中村和敏（九州産業大学）

GARC セッション(人間社会第 2 講義棟 207) 6 月 29 日(日)10:00～12:15

座長：村松潤一（岐阜聖徳学園大学）

10:00～10:30

第1報告「GARC2024 年度活動と研究成果の書籍化に関する確認事項について」

発表者：村松潤一（岐阜聖徳学園大学）

10:35～11:50

第2報告「小売・サービス企業のグローバル競争優位性に関するシステムティック・レ
ビュー：理論的枠組みと実証研究の動向」

発表者：Tran Thi Tuyet Nhung（愛知東邦大学）

11:10～11:40

第3報告「中国自動車産業の南進政策が ASEAN に及ぼす影響と日系企業の成長機会に
関する考察」

発表者：岩井博史（日野自動車株式会社）

11:45～12:15

第4報告「サービスロジックの視点から捉えた在留外国人を対象とする生命保険を通じ
た価値共創の現状と課題に関する研究」

発表者：松本誠也（プルデンシャル生命保険株式会社）

2. 冬季全国研究大会開催報告

第2回冬季全国研究大会

開催日：2025年12月21日（日）

開催方法：Zoom

司会：（前半）亀岡京子（研究委員会委員長，名古屋学院大学）
（後半）中村友哉（研究委員会副委員長，兵庫県立大学）

13:00～13:05

開会挨拶 藤岡資正（アジア市場経済学会会長，明治大学）

13:05～13:10

講演者紹介

13:10～13:55

【特別講演】 「アジア市場における QR コードの活用事情と開発事例」

発表者：原昌宏 氏（株式会社デンソーウエーブ）

14:00～14:35

第1 報告「ヒアリングによる監査役の監査機能と役割、権限と企業側の受け入れ態勢」

発表者：柏木理佳（立教大学）

コメンテーター：村田大学（和光大学）

質疑応答

14:35～15:10

第2 報告 “Migration Policies and Stratification of Citizenship in an Era of global
Financialisation: A Comparative Case Study of Portugal and Japan”

発表者：Michael Guanyao Wang（コインブラ大学大学院，ポルトガル）

コメンテーター：高橋義仁（アジア市場経済学会副会長，専修大学）

質疑応答

15:15～15:50

第3 報告「中国における 2014 年全国通関士資格統一試験廃止後の通関業務への影響と
課題」

発表者：石川雅啓（近畿大学）

コメンテーター：佐々木建洋（広島トレードアカデミー）

質疑応答

15:50～16:25

第4 報告「異文化経験が起業意図に与える影響のメカニズムーアジアにおける JICA 海
外協力隊経験者に焦点を当てた探索的研究ー」

発表者：高木啓介（東海大学）

コメンテーター：亀岡京子（名古屋学院大学）

質疑応答

16:25～16:30

閉会挨拶 飯島 高雄（アジア市場経済学会副会長，近畿大学）

IV. 学会の運営に関する事項

[1] 2025年度 第1回理事会

開催日時：2024年6月27日（金）17:45～18:15

開催場所：金沢大学角間キャンパス人間社会2号館3階第1会議室

出席理事（敬称略）

石川和男、岡田康孝、亀岡京子、丸谷雄一郎、藤岡資正、飯島高雄、星田剛、
柯麗華、張婧（出席9名、委任状9）

会計監事（敬称略）

梁庭昌、江向華

司会（敬称略）

村松潤一

議題・報告事項：

- (1) 会長の選出

議事録

- (1) 新会長の自薦・他薦が行われ、他薦により藤岡資正先生が推薦され、理事会として承認された。第29回会員総会にて審議することとした。

[2] 理事会メール審議

審議期間：2025年7月22日～7月29日

審議事項：

- (3) 2025年度SIG助成金申請について

議事録

- (3) 下記の申請内容が承認された。
 - ・申請区分：課題解決型
 - ・申請者：柏木理佳（立教大学）、岩尾詠一郎（専修大学）
 - ・研究課題：「監査役の実効性の有無 — 中国との比較」

[3] 2025年度 第2回理事会

開催日時：2025年9月13日（土）14:00～15:00

開催場所：Zoom

出席理事（敬称略）

藤岡資正、高橋義仁、三浦佳子、飯島高雄、星田剛、亀岡京子、今村一真、柯麗華、

岡田康孝、小森正彦、チャン・テイ・トゥイエト・ニユン、藤井博義、張婧
(13名、委任状7通)

会計監事(敬称略)

梁庭昌、江向華

出席幹事(敬称略)

中村和敏、岩尾詠一郎、河知延、林釗、高木啓介、村松潤一、藤岡芳郎、張善会、
坂田裕輔、中井教雄

本部事務局

張婧

議題・報告事項

- (4) 新体制の報告(資料1)
- (5) 会長より挨拶
- (6) 東西副会長より活動計画
- (7) 各委員会からの活動計画
- (8) 2025年度予算案(資料2)
- (9) 30周年記念事業について
- (10) 会員の入退会について
- (11) その他

議事録

(4) 新体制の報告

事務局より、2025年度の新体制について資料1に基づき説明があった。資料確認後、理事からの質問や意見はなく、報告を了承した。

(5) 会長より挨拶

藤岡会長より、学会の方向性および活動予定について挨拶文をいただき、理事より質問はなく、了承された。

(6) 東西副会長より活動計画

東部副会長高橋先生、西部副会長飯島先生より挨拶および2025年度の活動計画を説明され、説明内容について、理事より質問や意見はなく、了承された。

(7) 各委員会からの活動計画

星田総務委員長、亀岡研究委員長、今村編集委員長、村松センター長、若手の会江リーダーより資料通りに2025年度の活動計画をなされ、理事からの質問・意見はなく了承された。なお、日本経済学会連合の活動計画は事務局より代理報告であった。

(8) 2025年度予算案(資料2訂正版)

事務局より、2025年度予算案について説明があった。

予算書の一部に記載ミスがあり、訂正後の予算案（資料2訂正版）を確認した。
 構成員より会費収入の算出方法について、会員数×0.8で計算している理由について質問があり、事務局より、徴収率を8割として見積もったものであると説明。
 今後の算出方法については、会員数100%で算出し、不足分は繰越金で調整する方法もあるとの意見が出た。予算案は以上の内容を踏まえ、了承された。

(9) 30周年記念事業について

事務局より簡単に進捗状況の報告がなされ、詳細は次回理事会で協議予定であることを報告し、了承された。

(10) 会員の入退会について

事務局より、新規入退会の申請がない旨を説明した。

(11) その他

その他の議案はなく、理事会を終了。

事務局より会員総会へは引き続きご参加いただくよう案内した。

(資料1)

会長		藤岡 資正	明治大学
副会長	東部（編集、国際交流担当）	高橋 義仁	専修大学(任命理事)
	西部（総務、研究担当）	飯島 高雄	近畿大学
事務局長	国内業務、会員関係	張 婧	金沢大学
30周年記念事業（総合企画担当）		藤岡 資正	明治大学
30周年記念事業（シンポジウム担当）		高橋 義仁	専修大学
30周年記念事業（30年の歩み担当）		飯島 高雄	近畿大学
30周年記念事業（出版担当）		村松 潤一	岐阜聖徳学園大学
運営委員	会長	藤岡 資正	明治大学
	副会長	高橋 義仁	専修大学
	副会長	飯島 高雄	近畿大学
	総務委員長	星田 剛	安田女子大学
	研究委員長	亀岡 京子	名古屋学院大学
	編集委員長	今村 一真	茨城大学（任命理事）
	グローバルアジア研究センターセンター長	村松 潤一	岐阜聖徳学園大学
理事（東部）	継続理事	石川 和男	専修大学
	継続理事	岡田 康孝	武田商事（株）
	継続理事	亀岡 京子	名古屋学院大学

	継続理事	金 炯中	亜細亜大学
	継続理事	小森 正彦	亜細亜大学
	継続理事	田畠 真弓	専修大学
	継続理事	松尾 仁	東京福祉大学
	継続理事	丸谷 雄一郎	東京経済大学
	新理事	藤岡 資正	明治大学
	新理事	許 佑旭	明治大学
	新理事	佐脇 英志	都留文科大学
	新理事	藤井 博義	立正大学
理事（西部）	継続理事	飯島 高雄	近畿大学
	継続理事	星田 剛	安田女子大学
	新理事	柯 麗華	静岡県立農林環境専門職大学
	新理事	関 智宏	同志社大学
	新理事	中村友哉	兵庫県立大学
	新理事	チャン・テイ・トゥイエト・ニユン	愛知東邦大学
	新理事	三浦 佳子	長崎県立大学
	新理事	林田 秀樹	同志社大学
	新理事	張 婧	金沢大学
任命理事		今村一真	茨城大学
		高橋義仁	専修大学
会計監事	東部	梁 庭昌	金沢星稜大学
	西部	江 向華	京都女子大学
幹事	東部	曾我 寛人	釧路公立大学
		松本 誠也	プルデンシャル生命保険株式会社
		庄司 真人	高千穂大学
		高木 啓介	東海大学
		斎藤 典晃	高千穂大学
		中村 竜哉	拓殖大学
		岩尾 詠一郎	専修大学
		張 巧韻	武蔵野大学
		林 釗	帝京平成大学

西部		村松 潤一	岐阜聖徳学園大学
		河 知延	近畿大学
		洪 性奉	摂南大学
		張 善会	岡山理科大学
		藤岡 芳郎	畿央大学
		坂田 裕輔	近畿大学
		中井 教雄	広島修道大学
		中村 和敏	九州産業大学
		大藪 亮	熊本大学
顧問		川本 明人	広島修道大学
		神田 善弘	広島修道大学
		西澤 信善	東亜大学
各種委員会・その他			
総務委員会	委員長	星田 剛	安田女子大学
	副委員長	曾我 寛人	釧路公立大学
	委員	許 佑旭	明治大学
	委員	高木 啓介	東海大学
	委員	張 善会	岡山理科大学
研究委員会	委員長	亀岡京子	名古屋学院大学
	副委員長	中村友哉	兵庫県立大学
	委員	中井教雄	広島修道大学
	委員	チャン・テイ・トウイェト・ニユン	愛知東邦大学
編集委員会	委員長	今村 一真	茨城大学
	副委員長	河 知延	近畿大学
	委員（査読委員）		
	経済学系	飯島 高雄	近畿大学
		落合 宏	帝京大学
		坂田 裕輔	近畿大学
		中井 教雄	広島修道大学
	商学系	今村 一真	茨城大学
		柯 麗華	静岡県立農林環境専門職大学
		齋藤 典晃	高千穂大学
		梁 庭昌	金沢星稜大学

	経営学系	河 知延	近畿大学
		江 向華	京都女子大学
		藤井 宏	立正大学
		洪 性奉	摂南大学
グローバルアジア研究センター	センター長	村松 潤一	岐阜聖徳学園大学
	副センター長	藤岡 芳郎	畿央大学
	委員	岡田 康孝	武田商事（株）
		松本 誠也	プルデンシャル生命保険
若手の会	リーダー	江 向華	京都女子大学
	副リーダー	曾我 寛人	釧路公立大学
日本経済学会連合評議員		小林 守	専修大学
		藤岡 資正	明治大学
名誉会員		岡村 邦輔	日本大学名誉教授

（資料2 訂正版）

[4] 2025年度 第3回理事会

開催日時：2025年11月23日（日）13:30～15:05

開催場所：Zoom

出席理事（敬称略）

藤岡資正、高橋義仁、林田秀樹、三浦佳子、星田剛、亀岡京子、今村一真、岡田康孝、中村友哉、チャン・テイ・トゥイエト・ニユン、石川和男、藤井博義、佐脇英志、張婧（14名、委任状3通）

会計監事（敬称略）

梁庭昌、江向華

出席幹事（敬称略）

村松潤一、藤岡芳郎、張善会、坂田裕輔、中井教雄、松本誠也、八杉裕美子、谷耕太
本部事務局
張婧

議題・報告事項

- (12) 会長より
- (13) 東西副会長より
- (14) 各委員会・WGからの報告
- (15) 来年度全国研究大会について（資料1）

(16) 「アジア市場経済学会 30 周年の歩み」構成案（資料 2）

(17) 会員の入退会について

議事録

(12) 会長より挨拶

藤岡会長より、学会の方向性および具体的な活動について資料通りに説明をいただいた。

(13) 東西副会長より

高橋東部副会長より、2025 年 12 月 6 日に東北大学片平さくらホールにて開催予定の「産学連携学会・地域活性学会・アジア市場経済学会 三学会共同シンポジウム」（前回理事会報告済み）について、最新の進捗状況が報告された。

西部部会の活動報告について、張事務局長が代理で資料通りに報告した。

(14) 各委員会・WG からの報告

星田総務委員長、亀岡研究委員長、今村編集委員長、村松センター長、若手の会江リーダー、藤岡日本経済学会連合評議員より資料通りに活動報告をなされ、理事からの質問・意見はなく了承された。なお、日本経済学会連合の活動計画は事務局より代理報告であった。

GARC 出版事業について、藤岡副センター長より補足説明があった。書籍出版にかかる費用は、一部を GARC 経費（90 万円）、一部を学会負担（50 万円）とする案が示された。審議の結果、本件は承認された。

(15) 来年度全国研究大会について（資料 1）

来年度全国研究大会について、実行委員長の林田先生より、資料 1 に基づき説明があった。大会の開催趣旨、日程、会場、運営体制および準備スケジュール等について報告がなされ、理事会として内容を確認した。内容について質問・意見はなく了承された。

(16) 「アジア市場経済学会 30 周年の歩み」構成案（資料 2）

30 周年記念事業『30 年の歩み』の担当である飯島先生より構成案の資料が提出され、藤岡会長が代理として資料 2 に基づき説明を行った。内容についての質問・意見はなく、了承された。

(17) 会員の入退会について

事務局より 1 名の退会が報告された。

（資料 1）

第 30 回全国研究大会について

2025 年 11 月 23 日

1. 開催時期、場所、方法

・開催時期： 2026 年 6 月 27 日(土)、28 日(日)、理事会は 6 月 26 日（金）

・場所： 同志社大学今出川キャンパス

【会場仮予約内容】

<教室>

日時：2026年6月27日（土）～6月28日（日）終日

場所：

① 良心館 RY101（196席）,RY105（160席）,RY106（160席）,RY107（376席）

→ 利点：地下鉄今出川駅直結で便利…濡れなくて済む、施設が新しい

難点：分科会開催に適切なキャパの教室がない。

② 至誠館 S2階全教室 S21（159席）,S22（588席）,S23（72席）,S24（72席）

→ 利点：分科会開催に適切なキャパの教室がワンフロアで揃う、分科会が増えそうな場合、1・3階にも70～100席程度の部屋を追加で確保できる、両隣の建物が重要文化財で、キャンパスの雰囲気を楽しめる。

難点：地下鉄今出川駅から歩いて5分、梅雨時は濡れる、施設がやや古い

<会議室>

日時：2026年6月26日（金）～6月28日（日）終日

場所：至誠館会議室

目的：理事会（6月26日）、控え室（6月27,28日）

【確定日】

・教室 → 2026年3月末

・会議室 → 2026年3月中旬

・開催方法： 対面

2. 実行委員会

・委員長 林田秀樹（同志社大学）

・副委員長 江向華（京都女子大学）

・副委員長 中井教雄（広島修道大学）

・委員 学会執行部（会長、東西副会長、各委員長、本部事務局）

3. プログラム委員会

・委員長

研究委員長 亀岡京子（名古屋学院大学）

・国内セッション委員長

編集委員長 今村一真（茨城大学）

・国際セッション委員長

・センターセッション委員長

GARCセンター長 村松潤一（岐阜聖徳学園大学）

・委員 学会執行部（会長、東西副会長、各委員長、本部事務局、GARC副センター長）

4. タイムスケジュール

(1) 2025年11月 統一論題及び趣意書の承認(理事会)

(2) 2025年12月下旬 開催案内/発表希望案内の発信(実行委員長:林田)

①国内セッション(担当:実行委員会)

・発表希望の申込先は実行委員会(副委員長:中井先生 or 江先生)

・メールにて発信及びHP掲載(本部事務局)

②国際セッション(担当:国際セッション委員会)

・海外会員に案内メールの発信(発表希望の申込先は国際セッション委員会)

③センターセッション(担当:GARC)

(3) 2026年1月下旬 発表希望締め切り

(4) 2026年3月下旬 発表希望者は、審査用発表要旨(テンプレートに従い、A4で4頁)、公開用発表要旨(テンプレートに従い、A4で1頁)をプログラム委員会に提出

(5) 2026年4月中旬 発表の採否を決定し、通知(担当:プログラム委員会)

(6) 2026年4月下旬 開催校における部屋割り(担当:実行委員会)

プログラム作成/公開(担当:プログラム委員会)

①国内セッションの統一論題報告者、自由論題報告者、座長、コメンテーターの選定、及び通知(担当:国内セッション委員長)

②国際セッションの基調報告者、自由論題報告者、座長、コメンテーターの選定の選定、及び通知(担当:国際セッション委員長)

③センターセッション 発表の場合、コメンテーターの選定(担当:GARCセンター長)

(7) 2026年5月初旬 公開用発表要旨の公開(担当:プログラム委員会)

(8) 2026年6月26日(金)理事会

(9) 2026年6月27日(土)~28日(日)全国研究大会(27日会員総会)

* (注) 口頭発表賞について(運営はプログラム委員会が担当)

2023年度から、優れた口頭発表に対して、表彰する

手順①審査用発表要旨をもとに優秀口頭発表候補を決める

手順②候補にあがった口頭発表に赴き、候補に相応しいかの審査を行う

手順③審査用発表要旨及び口頭発表の審査結果を総合的に判断し、口頭発表優秀賞を決定し、後日報告する。

5. 統一論題および趣意書

アジア市場経済学会 第30回(2026年)全国研究大会

統一論題及び趣意書

「アジアと学び、世界を迎える:日本の企業と町の「成熟」の活かし方」

日本は成熟した先進国であるという認識が、国内外で一般的になって久しい。少なくとも40年は経過している。しかし、本学会が創立された1990年代半ば以降、いわゆる「少子高齢化」が進むにしたがって、その「成熟」は、無意識的に「老化」というマイナスイメージで捉えられることが国内で定着してきているといえないだろうか。今回の統一論題の趣旨は、そうした日本のイメージに疑問を投げかけ、アジアとともに学びながら日本の成熟をプラスの方向に活かし、世界から人々を迎えることで、たとえ老化を伴うものであったとしても日本の成熟をより豊かなものとしていけるヒントを探ろうとすることにある。そうすることが、将来においてアジアと日本に豊かな産業と市場、前途有為な人材が育っていく展望をつかむ契機となれば、この統一論題の下での議論は意義をもつことになる。

以下では、「アジアと学ぶ」こと、「世界を迎える」ことそれぞれについて、今回の論題について議論する際、どのような論点を想定できるかについてみることにする。

【アジアと学ぶ】

これまで、製造業（ものづくり）の発展において群を抜く日本がアジア諸国に技術を移転させることにより「日本がアジアに教える」、あるいは「アジアが日本から学ぶ」ことが両者の産業経済上の知的資源の自然な流れとみられていた。しかし、現在では、アジアと日本との関係はこうした一方向的な「学ぶ」「教える」という関係だけで成り立つものではなくなってきている。日本企業とアジアの顧客や取引先企業、内外の行政など利害関係者間の「価値共創」とは少し異なる領域・枠組みでの「アジアとの学び」について考える。例えば、日本企業によるアジアの大学・研究機関との産学連携に基づく双方向的な製品・市場・事業機会の開発、アジアの創発型先端企業との協同・競合・対抗を起点とした日本企業・研究機関間の新たな協調などである。これらの相互交流のなかで、日本の企業と社会の「成熟度の高さ」がどのように活かされうるか、様々な事例について議論する。

【世界を迎える】

2012年以降、円高が昂進・定着してくるなかで、海外観光客、特にアジアからの観光客が激増し、いわゆるインバウンド景気が日本各地の経済を底堅く支えてきた。そうしたなかで、シンガポールやベトナムを対象としたある調査によると、訪日を機に日本の伝統工芸品の魅力を知り帰国後もそれを取り寄せるなどして需要を持続させている観光客も少なくないという。国内では人口減少とともにシュリンクする工芸品市場をアジアの市場が補うことで、日本の伝統産業の新たな振興につながるケースであるといえる。ただ、オーバーツーリズムが地元住民の生活を一部阻害するなどの現象もみられるため、海外観光客の増大は決して歓迎すべきことばかりではないが、今回の大会が開催される京都では、京都市内に溢れかえる観光客を、市外の歴史的な景観と伝統的な農的自然に恵まれた「もうひとつの京都」へと案内する観光政策が行われている。以上のような例も、「成熟した日本」であればこそ可能となるものである。

以上に例示したものを含め、統一論題に関連した様々なテーマでの報告を促し、アジア、そして世界と「成熟した日本」との関係のあり方、「日本の成熟」の活かし方を問い直す。

2025年12月吉日
アジア市場経済学会
第30回全国研究大会実行委員会、プログラム委員会

6. 統一論題セッション開催方法について

同志社大学人文科学研究所では、毎年数回「公開講演会」を開催している。これは、所内に17部門設置されている「部門研究会」と呼ばれる学際的共同研究プロジェクトの研究成果の一般・学生への還元を趣旨として企画されるか、研究所の専任研究員が企画するか、いずれかのかたちでもたれるものであるが、今回大会の統一論題セッションを林田の持ち込み企画として研究所に提案しこの公開講演会を兼ねるかたちで開催することにはどうかと考えている。このことの利点、条件は以下の通りである。

利点：

- 1) 講師への謝礼を当研究所の負担で支払うことができる
- 2) 朝日新聞の広告などで広報できるので、本学会に注目が集まることが期待される

条件：

- 1) 学会員だけでなく、一般・学生に公開される
- 2) 専任研究員が話者として登壇する（林田は趣旨説明・モデレーターの役割）

7. その他：大学からの学会開催費補助について

カテゴリーと補助金額

1) 主催団体として定期的に学会等を開催しており、5回以上の開催実績を有し、かつ本学の教員及び本学学生以外の学会からの参加者が参加者の半数以上を占める学会等

(50,000円)

2) 100名以上の会員が会場において参加する学会等 (50,000円)

(資料2)

2025年11月23日
「アジア市場経済学会30年の歩み」構成案
飯島高雄

30年の歩み (案)	20年の歩み
会長挨拶—アジア市場経済学会 創立20周年に寄せて— 会長 藤岡資正	会長挨拶—アジア市場経済学会 創立20周年に寄せて— 会長 高橋義仁

I 研究活動の定着—GARCの経緯・目的 ・活動— 村松潤一	I 研究活動の定着—この10年を振り返って— 村松潤一
II 創立30周年に寄せて ・アジア市場経済学会創立30周年に寄せて 西澤信善 ・アジア市場経済学会30周年記念に際して 川本明人 ・アジア市場経済学会創立20周年に寄せて 石川幸一	II 創立20周年に寄せて ・アジア市場経済学会創立20周年に寄せて 西澤信善 ・アジア市場経済学会20周年記念に際して 顧問 神田善弘 ・学会活動を振り返って 前田和實 ・アジア「市場」研究20年のDNAとその先見性 小林守
III 各種委員会等の活動 1. 総務委員会 委員長 星田剛 2. 研究委員会 委員長 亀岡京子 3. 編集委員会 委員長 今村一真 4. 旧国際交流委員会 委員長 高橋義仁	III 各種委員会等の活動 1. 総務委員会 委員長 新本寛之 2. 研究委員会 委員長 大藪亮 3. 年報委員会 委員長 瀧田修一 4. 国際交流委員会 委員長 飯島高雄
IV 研究報告会の記録 全国研究大会統一論題・会場校・実行委員長一覧（第21回～第29回） 各年度全国研究大会、部会報告会の詳細	IV 研究報告会の記録 全国研究大会統一論題・会場校・実行委員長一覧（第13回～第20回） 各年度全国研究大会、部会報告会の詳細
V 学会の刊行物 1. 年報 目次（第19巻～第28巻） 2. 会報<JAFAMEニュース> 概要（No.20-2～No.28）	V 学会の刊行物 1. 年報 目次（第12巻～第18巻） 2. 会報<JAFAMEニュース> 概要（No.13-1～No.20-1）
VI 役職者名簿	VI 役職者名簿
編集後記 30周年記念事業委員長 飯島高雄	編集後記 20周年記念委員会委員長 岡本喜裕

[5] 理事会メール審議

審議期間：

2026年11月28日～12月4日

審議事項：

(18) 会員の入会申請について

議事録

(18) メール審議の結果、会員1名（正会員）の入会申請が承認された。

[6] 2025年度 第4回理事会

開催日時：2026年3月21日（土）13:30～14:53

開催場所：Zoom

出席理事（敬称略）

藤岡資正、高橋義仁、林田秀樹、三浦佳子、星田剛、岡田康孝、
チャン・ティ・トゥイエト・ニユン、石川和男、田畠真弓、松尾仁、許佑旭、
飯島高雄、張婧（13名、委任状7通）

会計監事（敬称略）

梁庭昌、江向華

出席幹事（敬称略）

村松潤一、藤岡芳郎、張善会、中井教雄、松本誠也、庄司真人、高木啓介、林釗、
岩尾詠一郎、張巧韻、河知延

本部事務局

張婧

議題・報告事項

- (19) 会長より（資料1）
- (20) 東西副会長および各委員会・WGからの活動報告
- (21) 第30回全国研究大会について（資料2）
- (22) 30周年記念事業について
- (23) 会員の入退会について
- (24) 正会員の海外会員への変更について
- (25) その他
会員情報メンテナンス

議事録

- (19) 会長より挨拶（資料1）

藤岡会長より、学会の方向性および具体的な活動について資料通りに説明をいただいた。

- (20) 東西副会長および各委員会・WGからの活動報告

東西副会長報告

高橋東部副会長より、東部部会の活動について報告があった。2025年12月6日に東北大学片平さくらホールにて開催された「産学連携学会・地域活性学会・アジア市場経済学会三学会共同シンポジウム」について、開催概要および成果が報告され、来年度も同様の共同事業の実施を検討中である旨説明があった。

飯島西部副会長より、日本貿易学会との調整が整わず部会を開催できなかったこと、また「30年の歩み」の編集作業について準備が遅れていることが報告された。

各委員会・WGからの報告

星田総務委員長、亀岡研究委員長（事務局代理）、今村編集委員長（事務局代理）、村松センター長、若手の会江リーダー、藤岡日本経済学会連合評議員より資料通りに活動報告がなされ、理事に了承された。

(21) 第30回全国研究大会について（資料2）

林田実行委員長より、第30回全国研究大会について資料2に基づき説明があった。

開催場所は同志社大学今出川キャンパスを予定しており、教室および会議室の予約状況について説明がなされた。前回理事会で想定していた教室の一部が使用できなくなったため、代替として1階の教室を追加確保した旨報告があった。

報告者募集については、募集期間の延長および実行委員等による働きかけの結果、最終的に22件の申込みがあり、例年並みの件数を確保できたことが報告された。プログラム編成については、統一論題セッションを同志社大学人文科学研究所との共催公開講演会として実施すること、国際セッション、GARCセッション、編集委員会特別セッションを設けることなどの方針が説明された。

大会参加費および懇親会費について、理事より意見徴収が行われた。過年度の収支状況について事務局より情報共有がなされた。

シニア会員の料金（大会参加費および懇親会費）については、第30回全国研究大会において設定することとし、今後の取扱いについては定例化せず、都度理事会において議論・承認することが確認された。

懇親会については、会場の予約状況および参加人数に応じた費用負担条件について説明がなされた。

以上の内容について審議の結果、了承された。

(22) 30周年記念事業について

藤岡会長より、30周年記念事業の進捗状況について説明があった。具体的には、「30年の歩み」の執筆準備（飯島副会長担当）、出版事業（GARC村松センター長担当）、記念シンポジウムの企画・実施（高橋副会長担当）について報告がなされた。

「30年の歩み」については、飯島副会長より、若手の会の立ち上げの経緯および活動内容を加えることが提案され、了承された。これにより、前回理事会で承認された構成に「若手の会」を追加することが確認された。

高橋副会長より、講演会を来年度以降拡大していく方向性が示された。これに対し、藤岡会長より、来年度も記念シンポジウムとして会長経験者を中心にテーマ設定を行い、事業を進めていく旨のコメントがあった。

以上の内容について、理事会として了承された。

(23) 会員の入退会について

事務局より、3名の新規入会および3名の退会について報告があった。

新規入会者3名については、入会申込書の内容を確認のうえ、入会を承認した。

(24) 正会員の海外会員への変更について

事務局より、正会員が海外へ移転したことに伴い、海外会員への資格変更の申し出があったことが説明された。これについて、未納分の会費を納入したうえで海外会員へ変更することを認める旨、事務局より提案があり、了承された。

(25) その他

事務局より、会員情報のメンテナンスについて説明があった。定例作業として、4月以降に会員情報の更新を実施する旨が説明され、了承された。

次回理事会は、2026年6月26日(金)に同志社大学にて対面開催する予定である。

開催時間については、大会実行委員と調整のうえ、別途案内する。

(資料1)

会長挨拶

会長 藤岡資正

(明治大学大学院グローバルビジネス研究科教授)

1997年の設立以来、本学会が研究対象とするアジアを取り巻く社会経済環境は大きく変貌を遂げてきました。こうした変化がアジア市場経済に及ぼす影響は極めて広範であり、研究および実務の関心も従来の専門領域を超えて拡大しております。本学会は、経済学、流通・マーケティング研究、経営学を基盤とする研究者と実務家がバランスよく参画する組織として、学問的伝統を継承しつつ、国際的・学際的アプローチを積極的に取り入れ、アジアの諸課題に向き合ってきました。

創立30周年という節目を迎えるにあたり、本学会の目的をあらためて見つめ直し、次の30年の発展に向けた基盤を整備し、その方向性を明確にするために、特に重要な課題が三つあると考えております。

第一に、国際化・アジア化の一層の推進です。本学会はこれまでもアジアを中心とする海外研究者との活発な交流を行ってきましたが、今後はそれを共同研究や共同シンポジウムの開催など、より実質的かつ継続的な取り組みへと発展させる必要があります。そのことにより、アジアの研究者や若手研究者に加えて実務家にとっても魅力ある学会としての地位を確立してまいります。このための取り組みとして、2026年3月18日(水)にはタイ王国バンコクにてIDE-JETRO(アジア研究所)と本学会の共同研究会を開催しました。

第二に、学会基盤の強化です。本学会は多様な会員によって構成されていますが、国際学会としての規模はなお十分とは言えません。会員のさらなる拡充を図るとともに、学术界にとどまらず産業界や海外研究者へと裾野を広げ、交流の活性化を推進していくことが

重要です。対外的な発信という点では、村松潤一 GARC 所長を中心として記念論集の準備が進んでおり 2026 年度中に白桃書房から出版予定となっています。また、2025 年 12 月 6 日には会員相互の交流を深め、学術的な知見の共有を図ることを目的として、本学会・産学連携学会・地域活性学会の共同事業シンポジウムを国立大学法人東北大学片平さくらホール 2 階会議室にて開催し、高橋義仁先生の挨拶の後に、各学会の会長及び村松潤一先生が講演を行いました。

第三に、社会との連携を通じた「開かれた学会」の実現です。アジアを取り巻く諸課題に実効性をもって取り組むためには、理論と実践の架橋が不可欠です。そのため、実務家や専門家との連携を一層強化するとともに、博士課程の院生のみならず、専門職大学院に在籍する社会人院生など、次代のアジアを担う世代にも本学会への関心と参画を促していきたいと考えております。また、社会人院生をいかに支援するかも重要な課題の一つです。また、2026 年 3 月には第 6 回 JETRO-サシン日本センター共催のセミナーにアジア市場経済学会として参加し「日系企業の競争力をつくる現地市場戦略」というタイトルにて、現地日系企業経営者約 60 名が参加しました。

以上のように、西部副会長の飯島高雄先生(近畿大学)、東部副会長の高橋義仁先生(専修大学)、事務局長の張婧先生(金沢大学)および学会執行部・会員の先生方の協力を得ながら、国際化と社会化という基本方針を具現化するための取り組みを推進してきました。加えて、本学会の特徴である「学際性」を活かした領域横断での研究会や若手研究者の交流を促進し、実務家会員の積極的な学会参加を促進することで学会活動を活性化させ、基盤強化を図っているところです。

また、本年は第 30 回全国研究大会が同志社大学にて開催される予定となっており、林田秀樹先生(同志社大学)を大会実行委員長、江向華先生(京都女子大学)・中井教雄先生(広島修道大学)を副委員長として準備を進めております。

学会創設 30 周年へ向けて、質の高い学際的な研究を担保しつつも、国際化と社会との連携の推進を堅固なものとするための活動を継続し、理論と実務の融合を図っていくことで、アジア市場経済学会の魅力を高めていくことができるよう取り組んでいきたいと思っておりますので、引き続きまして、先生方のご協力をお願い申し上げます。

(資料 2)

1. 開催場所仮予約について

・場所：同志社大学今出川キャンパス

【会場予約(確定)内容】

<教室>

至誠館 1 階：S1 (86 席) , S2 (159 席)

2 階：全教室 S21 (159 席) , S22 (588 席) , S23 (72 席) , S24 (72 席)

— 以上、27, 28 両日とも使用可能

3階：S33（72席）、S34（72席）

ー 3階は、28日のみ使用可能

→ 前回理事会では、「1・3階にも70～100席程度の部屋を追加で確保できる」として
いたが、3階の教室は、授業で使用される予定が入ってしまい、大会初日の6月27日
（土）は使用できないこととなったため、1回の2教室を予約した。

<会議室>

日時：2026年6月26日（金）13:00～

場所：寒梅館6階大会議室

目的：理事会（6月日）

日時：2026年6月27日（土）～6月28日（日）終日

場所：至誠館会議室

目的：控え室等（6月27, 28日）

https://www.doshisha.ac.jp/information/imadegawa/imadegawa_map/index.html

2. 報告者募集の経緯と結果

<報告者募集の経緯>

2025年12月29日 報告者募集開始（申込期限：2026年1月31日）

2026年2月2日 報告申込者数が12件と少なかったため、期限を2月15日まで延長

2月15日 報告申込者数が15件と伸びなかったため、実行委員・プログラム委員
の皆様へ報告申込の会員への働きかけを依頼

2月28日 例年とほぼ同数の22件の報告申込が達成されたため、報告申込みの募
集を修了→プログラム委員会へ報告申込者リストを送付してプログラム編成に進んでいた
だくよう依頼

<報告申込の内訳>

・国内セッション19件 vs. 国際セッション3件

・自由論題セッション21件 vs. 統一論題セッション1件

→ プログラムの編成については、実行委員会・プログラム委員会で以下の方針が共有さ
れている

1) 統一論題セッションは、同志社大学人文科学研究所主催の第113回公開講演会*との共
催として開催し、開催時間帯に他のセッションを組まない。なお、上記公開講演会の企画
は、先日研究所の会議で承認された。特別講演を依頼している講師の方に対しては5万円
の謝礼をお支払いするよう申請し認められた。

2) 国際セッションは藤岡会長を中心に、GARCセッションは村松センター長を中心に企
画・編成する

3) 昨年度と同様、独自に「編集委員会特別セッション」を設けることとし、その企画・編成には今村編集委員長が当たる

4) 全体の調整は、亀岡プログラム委員長を中心に行う。必要に応じて実行委員会が関与する

* 同志社大学人文科学研究所では、毎年数回「公開講演会」を開催している。今回は、本大会の統一論題セッションを林田の企画として研究所に提案し、承認されたのでこの公開講演会を兼ねるかたちで開催する。このことの利点と条件は以下の通り。

利点： 1) 講師への謝礼を当研究所の負担で支払うことができる

2) 一般に公開するため、本学会に注目が集まることが期待される

条件： 1) 学会員だけでなく。一般・学生に公開される

2) 専任研究員が話者として登壇する（林田は趣旨説明・モデレーター）

3. 大会参加費について

・額については、例年通りの設定でよいか？

・シニア割をシニア会員対象に適用するか？ 適用する場合、いくら割引とするか？

・徴収方法は、当日現金支払いのみとするか？

4. 今後のタイムスケジュール

(1) 2026年3月下旬 発表希望者は、審査用発表要旨(テンプレートに従い、A4で4頁)、公開用発表要旨(テンプレートに従い、A4で1頁)をプログラム委員会に提出

(2) 2026年4月中旬 発表の採否を決定し、通知(担当：プログラム委員会)

(3) 2026年4月下旬 開催校における部屋割り(担当：実行委員会)

プログラム作成/公開(担当：プログラム委員会)

①国内セッションの統一論題報告者、自由論題報告者、座長、コメンテーターの選定、及び通知(担当：国内セッション委員長)

②国際セッションの基調報告者、自由論題報告者、座長、コメンテーターの選定の選定、及び通知(担当：国際セッション委員長)

③センターセッション 発表の場合、コメンテーターの選定(担当：GARCセンター長)

(4) 2026年5月初旬 公開用発表要旨の公開(担当：プログラム委員会)

(5) 2026年6月26日(金) 理事会

(6) 2026年6月27日(土)～28日(日) 全国研究大会(27日会員総会)

* (注) 口頭発表賞について(運営はプログラム委員会が担当)

2023年度から、優れた口頭発表に対して、表彰する

手順①審査用発表要旨をもとに優秀口頭発表候補を決める

手順②候補にあがった口頭発表に赴き、候補に相応しいかの審査を行う

手順③審査用発表要旨及び口頭発表の審査結果を総合的に判断し、口頭発表優秀賞を決定し、後日報告する。

5. 懇親会について

- ・今出川校地室町キャンパスの Hamac de Padadis (アマーク・ド・パラディ) 寒梅館を予約済み：大会開催場所の至誠館からは徒歩 5 分
- ・上記の店を学会等の催しの懇親会場とする際、50 名以上の客数を前提に発注を受けているとのことであったので、参加者が 50 名以下であっても 50 名分の料金を支払う必要がある
- ・懇親会費の額について (シニア割をシニア会員対象に適用するか、適用する場合いくらの割引とするか)
- ・同志社大学柿本昭人副学長、及び特別講演講師招待の件

6. その他：大学からの学会開催費補助について

- ・カテゴリーと補助金額

1) 主催団体として定期的に学会等を開催しており、5 回以上の開催実績を有し、かつ本学の教員及び本学学生以外の学会からの参加者が参加者の半数以上を占める学会等 (50,000 円)

2) 100 名以上の会員が会場において参加する学会等 (50,000 円)

- ・学会開催補助金申請書作成についての相談

V. 2025 年度共同事業・海外視察報告

海外視察報告(会長・藤岡資正)

2025 年 12 月 6 日 産学連携学会・地域活性学会・アジア市場経済学会共同事業シンポジウム

2025 年 12 月 6 日、本学会、産学連携学会および地域活性学会の 3 学会による共同事業シンポジウムが東北大学において開催された。冒頭では、東部副会長の高橋義仁先生が開会の挨拶を行い、その後、各学会長による講演が行われた。本学会からは、藤岡資正が「ASEAN 諸国と日本の連携における大学付属機関の役割—中小企業の海外展開支援の事例—」と題して講演を行った。

続いて、各学会から研究報告が行われた。本学会からは、村松潤一 GARC センター長が「製造業のサービス化—価値共創マーケティングの観点から」、神戸製鋼所の宗陽一郎氏が「理論と実践の融合を狙いとした産学連携—『サービス起点のモノづくり変革』を例題

として一」、高橋義仁副会長（東部）が「国際連携に向けたインテリジェンスを考える」と題して、それぞれ研究報告を行った。

本シンポジウムは、各学会の研究成果と実務的知見を共有するとともに、産学連携および地域活性化、さらには国際連携の可能性について理解を深める有意義な機会となった。3学会による連携の意義を改めて確認する場ともなり、今後の学術交流および実践的活動のさらなる発展が期待される。

【概要】

1. 日 時 2025 年 12 月 6 日（土）12:30～21:30
2. 場 所 国立大学法人東北大学片平さくらホール 2 階会議室
（〒980-8577 宮城県仙台市片平 2-1-1 片平キャンパス内）
3. 主 催 産学連携学会、地域活性学会、アジア市場経済学会

- ・山形大学大学院理工学研究科 教授 産学連携学会会長 小野 浩幸 氏
演題：「産学連携システムの違いと経済成長＝日韓比較研究から一」
- ・秋田県立大学システム科学技術学部 教授 地域活性学会東北支部長 嶋崎 真仁 氏
演題：「地域活性化に向けた地方公立大学における産学連携教育活動」
- ・明治大学専門職大学院グローバルビジネス研究科 教授 アジア市場経済学会会長 藤岡 資正
演題：「ASEAN 諸国と日本の連携における大学付属機関の役割：中小企業の海外展開支援の事例」

【国際連携活動】

2026 年 3 月 チュラロンコン大学サシン経営大学院にて IDE-JETRO との共同研究会を開催

2026 年 3 月、タイ・バンコクのチュラロンコン大学サシン経営大学院において、IDE-JETRO（アジア経済研究所）バンコク事務所との共同研究会を開催した。研究会には、村松先生、佐脇先生、江先生、目黒先生、三浦先生、張先生、宗先生、藤岡先生が出席し、IDE-JETRO からは植木所長をはじめ 3 名が参加した。

本学会長による挨拶の後、研究発表は村松先生、宗先生、張先生、三浦先生、植木所長の順で行われ、各分野における最新の研究成果や知見が共有された。また、活発な意見交換が行われ、日タイ間の学術交流および共同研究のさらなる深化に向けて、国際的な研究連携を一層強化していくことを確認した。

2026 年 3 月 18 日、JETRO - サシンセミナーにて村松センター長ら GARC メンバー 3 名が登壇 一産学官連携を通じた日タイ間のビジネス・研究交流を促進一

2026年3月18日、タイ・バンコクにおいて、チュラロンコン大学サシン経営大学院およびJETROバンコク事務所の共催によるセミナーが開催され、本学会およびGARCはこれを後援した。本セミナーには、本学会から9名が参加したほか、JBIC、NEDO、JETROをはじめとする日系政府関係機関、ならびに銀行、商社、製造業等の日系企業から幹部を中心に約60名が参加した。

当日は、JETROバンコク事務所次長の山崎氏による開会挨拶ののち、同事務所の上江洲氏の司会のもと、「日系企業の現地化戦略」をテーマとして、村松先生、宗先生、藤岡先生がそれぞれの専門分野の立場から事例を交えつつ報告を行った。会場では、各発表を踏まえた知見の共有とともに活発な議論が展開され、産学官の連携を通じた日タイ間のビジネスおよび研究交流の促進に資する有意義な機会となった。

本セミナーは、研究成果の発信と実務的知見の共有の双方において重要な意義を有するものであり、今後の日タイ間における国際的連携のさらなる強化に向けた契機となることが期待される。

VI. 学会賞（著作、口頭発表）選考経緯

研究委員会
委員長 河知延(近畿大学)

(1) 学会賞（著書）受賞の経緯

2024年度学会賞（著書）の募集に対して、申請がなかったために本賞の授与は行わなかった。

(2) 学会賞（口頭賞）受賞の経緯

2024年度第28回全国研究大会の報告希望者が提出した審査用要旨について、「学会賞（著作、口頭発表）に関する内規」に従って、プログラム委員が審査票に基づき1次審査を行い、候補者（院生、および、一般）を選出した。2次審査は口頭発表に関する審査票に基づき研究大会の口頭発表を審査し、最終的に受賞者を決定している。その結果、学会賞1名、奨励賞は該当なし、院生賞1名となり、第29回全国研究大会の懇親会において受賞された。

学会賞：曾我寛人（釧路公立大学）「タイ・ベトナムにおける日系企業の国際化に関する実証分析－NEOKモデルの要素を中心に－」

院生賞：董燕（金沢大学大学院）「ライブコマースにおける社会的存在感の役割－中国消費者を対象とする調査からの考察－」

以上